

2025 年 第 3 回 須坂市水道料金等審議会 議事録(要旨)

- 開催日時場所
2025 年8月6日(水) 午後2時～午後3時 50 分
須坂市役所 本庁舎 3 階 305 会議室
- 出席者
委員(6名) 耳塚委員、篠塚委員、藤沢委員、竹前委員、吉川委員、杉田委員
幹事(2名) 勝山水道局長、村上上下水道課長
書記(6名) 荻原課長補佐、平林課長補佐、宮川(滋)係長、丸山主査、
關主任主事、冨澤 (一)課長補佐
委託事業者(2名) 株式会社ぎょうせい 担当者2名
- 傍聴人
市民1名
- 配付資料
会議次第
須坂市水道料金等審議会委員名簿
第2回水道料金等審議会議事録
水道料金算定要領に基づく須坂市水道料金表の検討
下水道ふれあいデー開催チラシ
- 会議の状況
 - 1 開会(村上上下水道課長)
 - 2 水道局長あいさつ(勝山局長)
 - 3 会長あいさつ(耳塚会長)
 - 4 審議(進行 耳塚会長)
 - 5 審議状況
 - (1) 第2回審議会議事録について
 - (2) 水道料金算定要領に基づく須坂市水道料金表の検討

事務局より説明を行った。

これに対し、委員から出された意見・質問の概要は次のとおりである。

委 員 基本料金を上げることにより、節水の効果が見えづらくなるのは市民感情としては苦しい。

委 員 水道使用量はライフサイクルに合わせて上下するが、それに合わせて料金変動する方が水道に対する意識が高まるのではないかと。基本料金に比重を置くとそこが損なわれるおそれがある。水量の変化に対する市民の関心を高めるためには、従量料金に比重を置いた方がいいのではないかと。

委 員 方向性を決めたいということであったが、これまでの体系を変えるということであれば、丁寧な説明が必要であると思う。経営面を鑑みると基本料金に重きを置くということは理解できる。

委 員 利用者と水道局でお互いメリットを見いだせる点で落ち着くという視点で考えることも必要と考える。

委 員 単純に 9% 上げることではなく、今後を見据えての議論は必要。

委 員 国の方向性はわかるが、地域の実情も加味してもらいたい。

事務局 国の方向性の説明として、須坂市でも浄水場等のハード設備で多額のお金がかかる中で、水道事業は独立採算制に基づき、利用者からいただく料金で経営を行

っています。

これまでは人口増加から従量料金に比重をおいて対応できていたが、今後地域としても日本全体としても人口減少となり、これまでの考えを変えていく必要がある。

工事費をはじめいろいろな経費も上がり、世帯や人口が減少することに加え、家庭の設備も節水型になり、従量料金に比重をおいたままでは、今後経営が不安定になっていくことが予想されます。

事務局 現状世帯数は増えているが、水道給水収益は減少していることを前提として今回はシミュレーションを行った。

準備料金が基本料金、水量料金が従量料金をそれぞれ対応し、方向性としては、こちらに近づけていかないと経営が苦しくなる。

検討するポイントについては、基本料金と従量料金の割合ケースを示しています。

委 員 料金が上がる理由は止むを得ないので、丁寧に説明をすれば市民にも理解が得られるのではないかと。

委 員 設備にお金がかかるのは理解ができた。水道事業ではなく、今後は下水道事業も上がることになるかと思う。市民にしっかり周知して理解を広めてもらいたい。

事務局 昨年度下水道事業の経営戦略も立て、水道事業と下水道事業を合わせて検討する案もありましたが、市民負担を軽減するため、水道事業を先に検討することとしました。

事務局 国の指針に関してはあくまでも指針であり、それが全てではありませんが、5年後の見直しで急激な方針転換により市民生活に激変をきたすわけにはいけないため、基本的な方向性は今回決める必要があることをご理解願います。

委 員 今回の方向性を決めたいという趣旨は、基本料金と従量料金の割合を決めたいということできた。資料のケース3や4のように基本料金の割合を上げる方向が良いのではないかと。

委 員 須坂市として将来を見据えた一歩踏み出せる提案がよいと考える。資料のケース3や4のように基本料金の割合を増やす方向が良いと感じている。

委 員 今回のように具体的な料金体系を示してもらえれば、わかりやすい。是非家庭単位で考えてもらいたい。今回の議論によって、水道事業をどうやって維持していくかという意味で理解が深まったと感じた。

6 その他

事務局 次回の第4回審議会は10月8日(水)午後2時より防災活動室1にて開催します。

7 閉会(村上上下水道課長)